県内初の義務教育学校へ向けて　　平成２９年９月１４日（木）文責：校長　惣田　正宏

黒島小中学校だより　～白露（はくろ）の頃～

町民・小中学校合同運動会へ向けて

「白露」は「しらつゆ」の意で、大気が冷えてきて、露ができはじめる時期です。朝夕の冷え込みに秋の深まりを感じます。同時に虫の音が辺り一面をにぎやかにしています。前期後半が始まり、はや半月が経ちました。子ども達はすっかり学校のリズムを取り戻し、来る２４日の町民・小中学校合同運動会に向け、練習も本格化しています。疲れがたまる頃でもあり、食事と睡眠をしっかり取らせてほしいと思っています。

さて、小学校の運動場は、水はけが悪く、２４日に雨が降り続けたら予備日の２５日に運動場を使用するのは難しいようです。また、地域の方々の参加も少なくなります。幸い人数が少ないので、表現運動は十分体育館で実施できます。そこで、「２４日は、雨天でも体育館で運動会を実施すること。」として、生涯学習推進委員会でも了承をいただきました。もちろん、気持ちのよい青空の下、運動会が実施されることを願ってやみません。２４日は、晴れても雨でも、子ども達は全力を尽くします。どうかたくさんの方の参加、観戦と応援をよろしくお願いします。

【力作揃い！夏休み作品展：９月５～７日】

子ども達が夏休みに取り組んだ課題や作品。その作品展を実施しました。小学生の「夏休みの友」や自由研究、工作や絵画、習字等、中学生のレポートや新聞、絵画や手芸等、どれも力作揃いで観るのが楽しくて、いつの間にか時間が過ぎていました。代表に選ばれた作品は１５日～１８日までの佐世保市夏休み作品展（島瀬美術センター）に展示されます。機会があればこちらもご観覧ください。

【通学できぬ子１億２千３百万人】

ユニセフは世界の６～１５歳の子どものうち１億２千３百万人が学校に通えない状態にあると発表しました。貧困と紛争が主な原因です。実に我が国の総人口と同じ数です。そのうち７５％が、サハラ砂漠以南のアフリカと南アジアで占められており、この１０年間で全く改善されていなません。当然のことながら子ども達は生まれる場所を選べません。今、北朝鮮のミサイルや核問題で、日本の平和も脅かされています。全世界の子ども達が安心して学べる環境をつくること。私たち大人は、最大限の努力をしなければならないと強く感じました。

【長崎新聞：水や空（９月７日掲載）より】

風船は私たちの命に似ているね

うれしいとふくらみ　悲しいとしぼむ

長崎大学附属中学校に、こんなふうに始まる石碑があります。作者は田中啓司先生。この学校の社会科の先生。ちょっと太めで汗っかきの熱血漢、誰からも愛された先生は、１１年前に突然脳の病気で急逝しました。３５歳でした。その１週間前、佐世保市の中学校でも道徳で「命の大切さ」を説いたばかり、自作の「風船」の詩は、その時の教材でした。

手を離したら飛んでいく　針で突いたら割れてしまう

だから〈自分と仲間の命を　強くふくらませていこうね〉

これがみんなに残した最後の言葉になりました。最後の受け持ちになった教え子たちが卒業する時にこの石碑が建てられました。今年で１０年。しぼんでいないか、弾んでいるか。登下校の生徒を見守るように、その碑は学校の門のすぐそばにあるそうです。

志半ばで急逝した田中先生。この詩に込められた子ども達一人一人への優しいまなざし、受け継いでいきたいものです。